

「夜の動物街道 (1)」

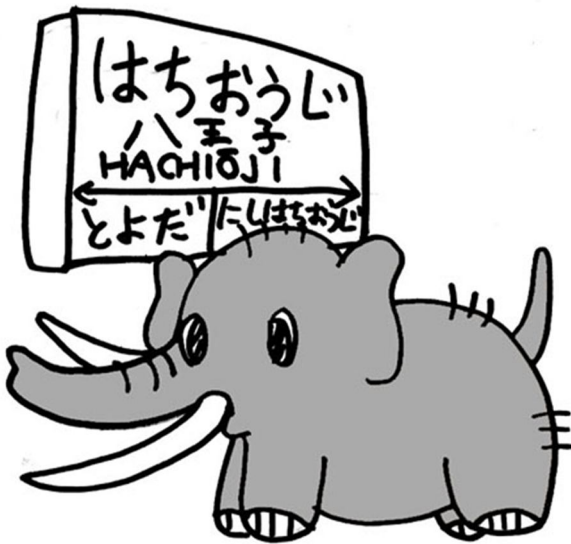
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

かつての氷河期の前後、海退(平均海水面が低下する現象)によって、日本列島は大陸と陸続きになっていた。当時は大型の哺乳類が、種類も個体数も豊富に生息していた。このことは多くの化石が物語っている。現在は北アメリカに多いバイソン、北極圏のヘラジカ、それにミエゾウ(三重象)、アケボノゾウ(曙象)、ナウマンゾウ、ハチオウジゾウ(八王子象)など、時代ごとに10種類もの象がいたのだ。



「ハチオウジゾウの牙と臼歯の化石」

完模式標本(慶応義塾幼稚舎蔵) 下は精密復元図



現在の日本列島には、ハチオウジゾウのような超大型の哺乳類は生息していない。日本列島で最も大きな陸上哺乳類はヒグマである。しかし、本州でのヒグマの目撃例は僅少で、生息しているか否かは定かでない(たぶんいない)。本州で最大の陸上哺乳類は「ツキノワグマ」(発音に注意「私の貝」と同じ抑揚が正しい)ということになる。本州に生息が確認されている、中～大型の陸上哺乳類は右上枠内の通りだ。

- ・ツキノワグマ ・ニホンカモシカ ・ニホンジカ
- ・イノシシ ・ムササビ ・ノウサギ ・キツネ
- ・タヌキ ・イタチ ・アナグマ ・ホンドテン
- ・ニホンザル ・ニホンリス
- ・ハクビシン(移入) ・アライグマ(移入)

私の「勘」で書いたもので、抜けている種があるかもしれない。また、亜種・変種・絶滅種・飼育種は書いてない。驚いたことに、軽井沢町、北軽井沢(長野原町)では、ここに書いたほぼ全種類を見ることができる。このリストの中で、私が軽井沢町内・北軽井沢地域で、いまだに目撃、或いは写真に撮ったことがない種類は、「ツキノワグマ」と「イタチ」のみである。

ところで、これらの哺乳動物を見られる、絶好の場所(道)がある。「白糸ハイランドウェイ」である。



軽井沢町内から北軽井沢(浅間高原)に上る道は2本だけである。一つは、国道17号線(中山道)の中軽井沢交差点から、北へ折れる国道146号線。この道は軽井沢と長野原・草津温泉方面を結ぶ幹線道路で、冬でも交通量が多く、夜間でもバスやトラックもガンガン走っている。「日本ロマンチック街道」の一部にもなっている。もう一つが「白糸ハイランドウェイ」という有料道路だ。これが知る人ぞ知る「動物街道」なのだ。特に冬の夜が「すばらしい」。